

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

送信先: report@r-ict-advisor.jp

報告日 令和4年12月23日

派遣決定番号

報告回次

1日目

令和4年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	飛騨市	代表者名	都竹淳也
担当者部署	総務部管財課情報システム係	連絡先電話番号	0577-73-7462
担当者役職	主任	担当者氏名	徳田溪祐
住所	509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号		

1-2. 推薦団体 (「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	庄司 昌彦
評価	大変よい
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	DXうあ標準化とは何か、なぜ必要なのかといった基本的なことを学ぶことができた。漠然とこなさなければならないタスクといった状態から、各担当者が課題意識をもって取り組める状態になったことは非常に大きな意義があると考えます。
アドバイザーへの要望事項	特になし

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日 (応募依頼より)	支援内容 (応募依頼より)	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和4年11月25日	講演	有	令和4年10月31日	453
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間 (分)
	令和4年12月20日	講演	13時00分	14時30分	0
				活動時間 (分)	90

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性 (職員、一般、企業等) について【自由記述】	人数
	飛騨市職員	18人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	基幹業務システム標準化に対し、各課の担当者がその目的や方法を理解しておらず、標準仕様書とのF&Gが進まない状態。	
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	第1に標準化について理解することで、各担当者が自身の業務であることを認識し、目的を理解したうえで標準化の対応ができる。 第2に標準化にとどまらず、業務のDXについて情報主管課が勝手にやってくれるのではなく、各課の課題をデジタルに結び付け提案できる人材の育成。	
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	なぜ自治体DXやシステムの標準化が必要なのか、そもそもDXとはどういう意味なのかといった経緯についての解説から、実際の国や先進自治体の取り組みについての説明。その後、実際に自治体が向き合い実施すべきことについての解説があった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	受講者へのアンケートで、DXの必要性について理解できたといった意見や、意識改革につながる内容だったとの意見が見られたため、少なくとも今回の受講者についてはDXや標準化について前向きに取り組む意識を醸成できた。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 参加職員へのアンケートでは満足度は★3.7と高い結果となった。(5段階中)半数近くの職員が2040問題に向けた自治体DXについて興味を持ったと回答しており、「なぜDXなのか理解できた」「意識改革につながる内容であったため、担当以外にも聞かせたい」との感想が	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	基幹業務システムの標準システムへの移行に向けた準備を進める。 自ら課題を発見し指摘できる人材の育成。	

未記入のセルが有ります。以下の項目に水色と黄色のセルが残っていないかご確認ください。
なお、〈その他〉を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

1-1.

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



